

高齢者居場所である 入浴サービスを守れ

吉川 三津子議員

佐屋・佐織の入浴施設は維持する方針だ

健康福祉部長



▲愛西市の入浴施設分布地図

問 サロン、訪問・通所サービスなど多種多様な高齢者の居場所を守っていかねばならないが、入浴サービスの利用状況は。

答 1日あたりの利用者は、佐屋老人福祉センターが350人、佐織総合福祉センターが120人、八開総合福祉センターが35人。立田北部コミュニティセンターは121人、立田南部コミュニティセンターは99人。

問 利用者の居住地域、年代、性別は。

答 年代・性別は集約していない。

問 高齢者のみの世帯や、独り暮らし、生活保護の方の利用もある。また、サロンへの参加の少ない男性にとっては、風呂は交流の場だ。市は、風呂が故障したら廃止してしまうのか。

海部地区 環境事務組合の 改革は

答 佐屋・佐織の福祉センターは、利用者も多いので維持し、八開総合福祉センターは修理できなくなったら廃止する。コミュニティセンターはニーズや費用対効果も検証し、検討する。

● 組合の八開処分場に、あま市が費用負担すべき汚水が運び込まれ、年間800万円の支出。

● 組合幹部の業者からのスナック接待。

答 津島市のことは改善の意見を述べている。あま市のことは初めて聞いた。八開処分場については注視していく。接待の件は吉川議員から聞いたが、正確な内容は把握していない。

問 海部地区環境事務組合の行革は進んだか。

答 適正な予算執行がされているときいている。

問 入札制度の課題のほかにいろいろな情報が届いているが市長は知っているか。

- 契約無しで組合の土地を津島市に無償貸与。
- きれいな水の放流に対し、汚水並みの料金を契約無しで津島市へ支払い。
- あま市が支払うべき最終処分費を組合が支払っていること。